

## 平成 27 年度 農業技術支援センター試験研究等実績概要

### 1 エダマメのセル成型苗を利用したトンネル早熟栽培と植栽密度による収量性の比較栽培について

市内直売で販売価格が高い 5 月出荷を目指し、極早生品種「福だるま」、早生品種「おつな姫」の 3 月播種セル成型苗を利用したトンネル早熟栽培を行い、収穫時期と植栽密度による収量性及び生育特性を調査した。

(結果)

3 月上旬播種セル成型苗栽培は、4 月中旬の直播栽培より収穫までの日数が 10 日ほど余分にかかるものの、極早生品種の「福だるま」で 5 月下旬の収穫が可能であった。早生品種の「おつな姫」においても 6 月初旬に収穫可能であった。

植栽密度の違いが収量性におよぼす影響は、植栽密度が高い (15 cm 間隔) 区画では一株当たりの莢数、莢重共に減少した。密度が低い (30 cm 間隔) 区画は一株当たり莢数、莢重の増加、節数も多く、また草丈が低いため、結束荷姿のボリューム感が優れた。10 アール当たり莢数、莢重は植栽密度が高いほど多くなったが、著しい増加は認められず、植栽密度は出荷の方法 (結束出荷または莢もぎ取り出荷) により選択するとよい。収穫時期が早いため、どちらの植栽密度でも害虫による被害はなかった。販売する場合特に有利である。

### 2 直売向け有望品種の特性調査について

直売に有望と思われるミズナ「紅法師」、カラシナ「コーラルリーフフェザー」を栽培し特性を調査した。

(結果)

「紅法師」は葉柄が赤紫で葉身の緑とのコントラストが美しい。「コーラルリーフフェザー」は「紅法師」とは逆に葉柄は緑であるが、葉身は鮮やかな赤紫に色づき、葉型は極細葉の切葉である。どちらも 9 月上旬播種、中旬定植、10 月中旬に草丈 20 cm 程で収穫した。植栽密度を高め徒長気味に栽培することで柔らかく生食に適する。

一般的な緑色のミズナと「紅法師」、「コーラルリーフフェザー」の 3 種を混ぜると緑と赤紫のコントラストが美しく見栄えがする。3 種を混ぜ、色合いの良いカラシナの辛みがアクセントになったミックスサラダ用に販売することは消費者の視覚に訴える販売方法と思われる。「紅法師」より「コーラルリーフフェザー」の成長が早いため、混ぜて販売するには播種を数回に分ける必要がある。

### 3 ダイコンにおける対抗植物(マリーゴールド:エバーグリーン)を利用したセンチュウ防除試験栽培について

環境保全型農業推進の一環としてダイコン栽培において対抗植物であるマリーゴールド:エバーグリーンを用いたセンチュウ防除効果の持続期間を調査する。

(結果)

昨年度と同一試験ほ場で昨年度と同様に大根を栽培した結果、センチュウ被害株率及び被害度はマリーゴールド区 (対抗植物区) ではどちらも 0、薬剤防除区 (ガスタード微粒剤使用) ではセンチュウ被害株率 26.7%、被害度 8.3、無防除区ではセンチュウ被害株率 46.7%、被害度 15 であった。昨年度の結果はマリーゴールド区 (対抗植物区) ではセンチュウ被害株率 0%、被害度 0、薬剤防除区 (ガスタード微粒剤使用) ではセンチュウ被害株率 5%、被害度 1.25、無防除区ではセンチュウ被害株率 90%、被害度 51.2 であった。結果を比較すると、二年目で薬剤防除

区は防除効果が低下したが、マリーゴールド区は高いセンチュウ防除効果が持続していた。今後もマリーゴールド区で大根を栽培し、センチュウ抑制効果が持続する期間について継続調査が必要である。

#### 4 露地ナスにおける天敵農薬(スワルスキー)を利用したアザミウマ防除試験栽培について

環境保全型農業推進の一環として露地ナス栽培において天敵農薬であるスワルスキーを用いたアザミウマ防除効果を調査する。

(結果)

4月下旬に定植、7月上旬にスワルスキーを放飼し、放飼区と未放飼区でのアザミウマの防除効果を比較調査した結果、アザミウマの防除効果が認められた。また、スワルスキーの露地ナスでの適用病害虫はアザミウマ類のみであるが、施設野菜での適用害虫であるチャノホコリダニについても、未放飼区では芯止まりや果実の被害が著しかったが、放飼区では非常に高い防除効果が見られた。

今年度のスワルスキー放飼後のアザミウマ及びチャノホコリダニの防除回数を昨年度と比較すると、今年度はそれぞれ、1回、0回、昨年度は5回、4回であった。このことから、スワルスキーは露地ナスにおいてアザミウマ類、チャノホコリダニの防除効果があると考えられる。今後、チャノホコリダニについて他の地域でも同様の効果が得られるのか調査が必要である。

#### 5 トウモロコシの早期収穫栽培について

市内直売で出荷ピークの7、8月以前の早期出荷を目指し、9230マルチと4号換気トンネルを使用して栽培し、収穫時期を調査した。

(結果)

ゴールドラッシュ86を3月中旬に播種したところ、播種後98日目の6月中旬に収穫できた。トウモロコシは5月から九州産が出回り始めるが、味の劣化の早いトウモロコシは地産地消で新鮮さを有利に活用し販売することが可能な野菜であることから、需要が高まり始める6月中旬収穫は有望であるとする。今後はさらに早い5月に収穫できるよう播種日を早めるなど、栽培環境の検討を引き続き行っていく。

#### 6 ナシヒメシンクイの発生予察について

ナシの害虫であるナシヒメシンクイの発生活長を調査し生産者へ情報提供することで、シンクイムシ類の適期防除に資することを目的として、ナシヒメシンクイを捕殺するフェロモントラップを4ヵ所(多摩区生産者、麻生区生産者、農業技術支援センターウメ園、同樹木園)に設置し、ナシヒメシンクイの発生活長をナシ生産者や県等に情報提供した。

(結果)

本年度のナシヒメシンクイの発生世代は、例年と同様に5回観察された。各世代のピークは4月8日、6月3日、7月10日、8月12日、9月16日となった。

発生活長と有効積算温度から7月10日の世代がナシ果実に食害を加える世代と考えられたので、この頃の防除が重要であることから、7月10日を防除適期とし、セレサ川崎農業協同組合を通じたメール等でナシ生産者に情報提供した。

今後も調査を継続し、生産者への情報提供を継続していきたい。

#### 7 ナシ赤星病の発生予察について

ナシの赤星病の適期防除を行うため、園内の発生予察樹(カイヅカイブキ)の赤星病菌の冬孢子

堆を観察し、発生予察情報を提供することで効果的な防除に資することを目的とし行った。

(結果)

ビヤクシン上の冬孢子堆を観察すると4月5日夜からの降雨によりには寒天状に膨らんでおり、この頃から赤星病の小生子が飛散し、ナシへの感染が始まったものと考えられる。その後、最高気温が20℃以下の日が続いたが、4月13、14日の降雨によって小生子の飛散のピークを迎え、4月22日の降雨により小生子がほとんど飛散し、感染期は終息したと考えられる。

セレサ川崎農業協同組合を通じメール等で発生予察情報を4回(3/30、4/13、4/22、5/12)ナシ生産者に提供した。予察情報は昨年より1回少なくなった。

今後も適切な防除に資するため、予察情報の提供を継続したい。

## 8 カメムシの発生予察について

ナシ、カキ等の果実を加害するカメムシ類の発生予察を生産者あて情報提供し、適切な防除に資することを目的とし行った。

(結果)

チャバネアオカメムシの年次別の捕殺数は、昨年(4,668頭)より大幅に少ない205頭となった。

市内のナシにおける被害はほとんどなかった。しかし、カキでは一部に被害が見受けられた。今後も調査を継続し、生産者への情報提供に努め、被害軽減につなげていきたい。

## 9 ナシ花粉採取事業及び貯蔵事業について

多摩川ナシの生産安定と品質向上を図るため、セレサ川崎農業協同組合との共同事業として、花粉の貯蔵事業を実施した。

(結果)

生産者から平成26年4月に預かり、農業技術支援センターで1年間貯蔵した花粉(76件)の預かり時平均発芽率は81.8%で、返却時平均発芽率は79.7%で、人工受粉に供するに十分な保存状態であった。

次年度交配用の貯蔵花粉の預かり件数は50件であり、貯蔵前の平均発芽率は80.6%であった。

## 10 切り花用ヒマワリの品種特性について

ヒマワリでは品種や播種期によって開花特性や切り花形質が違ってくるため、市内で栽培されているピンセントシリーズの「ポメロ」、「タンジェリン」とサンリッチシリーズの「フレッシュレモン」、「パイン45」について露地栽培における品種特性を調査した。また、環境保全型農業推進の一環として、播種期によってチョウ目害虫の被害を減らせるかも合わせて検討した。

(結果)

播種日を3月、4月、6月とずらし、到花日数、切り花長、害虫被害の有無等について調査した結果、「ポメロ」、「タンジェリン」、「パイン」では播種期が遅いほど到花日数が短くなり、切り花長も長くなる傾向が見られた。全体的にみると、「ポメロ」は開花揃いが良く、草丈も伸びバランスの取れた品種だった。「パイン45」は3月、4月播きで切り花長が短くなり、早播きの作型には不向きと思われた。チョウ目害虫の被害については3月播きではほとんど見られず、播種期が遅くなるほど被害も大きくなり、6月播きでは半分以上に被害が見られる品種もあったため、作型を変えることで農薬の散布を削減できると考えられた。

## 11 夏咲コギクの生育特性調査について

お盆に合わせた出荷が可能な夏咲コギクについて検討するため、有望と考えられる5品種（「7月咲桃色在来」、「7月咲黄色在来」、「まこと」、「しらかば」、「あすか」）を対象に生育特性を調査した。

（結果）

生育の良否、開花時期、切花の品質等について調査した結果、「7月咲桃色在来」と「7月咲黄色在来」が7月のお盆出荷に相当であると考えられた。また、「しらかば」が8月のお盆出荷に相当であると考えられた。今年は5月の少雨の影響で全体的に草丈が伸びず、良品が少なかった。

## 12 シクラメン栽培における排液分析・汁液分析値を用いた施肥管理について

シクラメン栽培において排液分析による施肥管理を行うため、市内シクラメン生産者の協力を得て、生育期間を通じた排液の肥料成分濃度の経時的変化を調査した。また、今年度から施肥の効果をより明らかにするためシクラメンの葉柄の汁液分析も行い、排液分析の値と比較検討した。

（結果）

排液の硝酸態窒素濃度、pH、EC及び汁液の硝酸態窒素濃度について分析を行い、生育期間を通じた肥料成分濃度の経時的変化及びそれぞれの適正値をおおむね把握することができた。また、分析結果をグラフにして生産者へ随時情報提供することにより、施肥管理の指標として活用することができた。ただし汁液分析は今年度分のデータしかないため、今後もデータの蓄積が必要と考えられ、継続して調査していきたい。

## 13 平成27年度土壌分析結果について

市内露地野菜、施設野菜、果樹等の生産基盤である土壌等について、化学性の分析及び診断指導を行った。

（結果）

区分	露地野菜	施設野菜	果樹	花き*	その他	養液分析	計
件数	561	88	102	331	3	5	1,090

\* 花きにはシクラメンの排液分析253件を含む。